2026年10月29日

各　位

ＳＥホールディングス・アンド・
インキュベーションズ株式会社
代表取締役社長　速　水　浩　二
（スタンダード・コード９４７８）
問い合わせ先
執行役員経営企画部部長　松　村　真　一
ＴＥＬ　０３－５３６２－３７００

【翔泳社】小学館との共同コンテンツ「@HitZine」開設のお知らせ

当社グループ子会社である株式会社翔泳社（東京都新宿区舟町５　代表取締役　臼井かおる）は、同社が運営するマーケティング専門メディア「MarkeZine（マーケジン）」と、小学館DIMEブランド室が運営するビジネスパーソン向け総合トレンドメディア「DIME（ダイム）」「@DIME（アットダイム）」との共同コンテンツ「YouTubeチャンネル『@HitZine』（アットヒットジン）（URL：https://www.youtube.com/@HitZine）」を10月29日（木）に開設いたしました。

詳細につきましては、添付しました同社プレスリリースをご参照ください。

当社グループでは、今後もオンラインメディアやイベントなどを通じて、IT市場、オンライン市場の発展や企業のDX・AX化に寄与していきます。

◆本件に対するお問い合わせ

株式会社翔泳社　広報担当
長田【 cr@shoeisha.co.jp 】
TEL： 03-6738-1984

◆IRに関するお問い合わせ

SE ホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社
経営企画部経営企画課
TEL： 03-5362-3700
お問い合わせ - SE Holdings and Incubations Group (sehi.co.jp)

以　上

プレスリリース

2026 年 10 月 29 日
株式会社翔泳社

【翔泳社×小学館の共同コンテンツ始動】MarkeZine 20 周年×DIME 40 周年！両編集長がビジネスの裏側に迫る YouTube チャンネル「@HitZine（アットヒットジン）」を開設

株式会社翔泳社（本社：東京都新宿区舟町 5、代表取締役社長：臼井かおる）が運営するマーケティング専門メディア**「MarkeZine（マーケジン）」**と、小学館 DIME ブランド室が運営するビジネスパーソン向け総合トレンドメディア**「DIME（ダイム）」「@DIME（アットダイム）」**は、**2026 年 10 月 29 日（木）より YouTube チャンネル「@HitZine」**を開設いたしました。
本チャンネルは、**「MarkeZine」の開設 20 周年**と**「DIME」の創刊 40 周年**という両メディアの節目を記念し、出版社の垣根を越えて、それぞれの強みを活かして発信してまいります。



■「@HitZine」とは

「MarkeZine」と「DIME」「@DIME」がタッグを組み、毎回異なるテーマからヒットの理由を紐解きます。次のトレンドをいち早くキャッチしたい人へ向けた共同コンテンツです。

■コンセプト

「なぜ、あの商品は売れた？」をテーマに掲げ、誰もが知る定番からニッチなヒット商品まで、その裏にあるヒットの法則をビジネス（toB）×消費者トレンド目線（toC）でゆるっと深掘りします。売上の数字はもちろん、表には出ない開発秘話やマーケティング施策の工夫まで、担当者の本音に迫ります。

・MarkeZine のビジネス視点：マーケティングのプロとしてヒットの仕掛を紐解きます
・DIME の消費者トレンド視点：トレンド・消費者動向に精通した視点で歯に衣着せず切り込みます
・担当者の本音の話：開発秘話・今だからいえる苦労話…わかってもらいたい商品への愛を思う存分語ってもらいます

【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）
株式会社翔泳社　広報担当：長田【cr@shoeisha.co.jp】
〒160-0006 東京都新宿区舟町 5　4F　tel：03-5362-3810

■アクティブユーザー月間 10 億超！アドビの売り方の変化・コミュニティ運営に迫る



記念すべき第 1 回では、ビジネスパーソンならだれも利用したことがあるアドビ製品のマーケティングを担当する轟啓介氏に登場いただきます。

・出演者：アドビ株式会社 マーケティング本部 コミュニティ & プロダクト部 Creative Cloud マーケティングマネージャー　轟 啓介氏
・轟氏は Web アプリ開発エンジニアを経てアドビに入社。パッケージ販売からサブスクリプション、そして生成 AI へと続く変化を 18 年にわたって内側から見てきました。
・前編では、クリエイティブと生産性に関するソリューションサービス全体で月間アクティブユーザーが 10 億人を超える（無料ユーザーなどを含む）同社が、どのように売り方を変えてきたのかを紐解きます。30 万円を超えるパッケージ製品を 2 年ごとに販売していた時代から、サブスクリプションへの転換、そしてフリーミアムで入口を広げる現在まで。「買っていただく」から「使い続けていただく」へと変わったマーケティングの裏側や、「販促の場ではない」というコミュニティ運営の考え方にも迫ります。

・動画はこちら：https://youtu.be/GFsjxPVZuqA
（※後編は後日公開予定）

【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）
株式会社翔泳社　広報担当：長田【cr@shoeisha.co.jp】
〒160-0006 東京都新宿区舟町 5　4F　tel：03-5362-3810

■両編集長によるコメント

「MarkeZine」宮田編集長

マーケティング専門メディア「MarkeZine」は今年 20 周年を迎え、マーケティング・コマース・セールスを横断するメディアとして新たなスタートを切りました。その節目に、40 周年を迎えた雑誌「DIME」およびウェブメディア「@DIME」と出版社の垣根を越えて新しいチャレンジができることを、大変うれしく思っています。

トレンドを誰より早くつかみ、最前線を走り続けてきた「DIME」「@DIME」の切り口と、その裏にある戦略や仕組みを読み解く「MarkeZine」の視点。この 2 つが重なったとき、「なぜ売れたのか」がどう見えてくるのか。正直、私自身がいちばん楽しみにしています。

モノも情報もあふれ、AI を使えば誰でもそれらしいものをつくれる時代です。だからこそ、ヒットを生み出してきた方々の言葉には、次のヒントが詰まっているはずです。たくさんのヒットメーカーに会いに行き、数字の裏にある試行錯誤や、表には出てこない工夫まで掘り下げ、皆さんのビジネスに役立つ情報としてお届けしていきます。「@HitZine」、ぜひご期待ください！

「DIME」「@DIME」石﨑編集長

「DIME」はおかげさまで創刊 40 周年を迎えました。この度、「MarkeZine」と出版社の垣根を越え、新たな YouTube チャンネル「@HitZine」を共同で立ち上げることができ、非常に楽しみです。本チャンネルの最大の面白さは、両メディアによる「視点の掛け合わせ」にあると思います。「MarkeZine」さんがマーケティングのプロとしてビジネス（toB）の視点からヒットの緻密な仕掛けを紐解くのに対し、「DIME」は常に読者と向き合ってきた消費者（toC）のトレンド目線から、ヒットの理由に切り込んでいきます。この異なる 2 つの視点から表向きの売上数字や綺麗な戦略だけでは見えてこない、泥臭い開発秘話や今だから言える苦労話など、担当者の方々の「本音」を引き出せればと思っております。

両者の視点が交わることでどのような化学反応が起きるのか、そして今後、定番からニッチな商品までどんなヒットの裏側に迫っていけるのか、私自身もこれからの展開が非常に楽しみです。ビジネスのヒントがたくさん詰まったコンテンツをお届けできればと思いますので、ぜひご注目ください！

■概要

チャンネル名：@HitZine（アットヒットジン）
公式 YouTube URL：https://www.youtube.com/@HitZine

■「@HitZine」への出演希望の企業・団体を募集中

URL：https://www.shoeisha.co.jp/ad/form?media=AHZ
担当：株式会社翔泳社 ビジネスプロデュース部 川合

■マーケティング専門メディア「MarkeZine（マーケジン）」

2006 年 5月22日にサイト開設以降、デジタルを主軸とした広告／マーケティング領域をカバーする国内最大級のメディアへと成長。最新ニュース／業界スペシャリストによる寄稿、業界キーパーソンや先進的なマーケティングに取り組む企業担当者・経営幹部へのインタビュー記事など、様々な切り口・視点のコンテンツを発信しています。

マーケティング専門メディア「MarkeZine」：https://markezine.jp/
MarkeZine が主催するカンファレンスイベント「MarkeZine Day（マーケジンデイ）」：
https://event.shoeisha.jp/mzday/archive

【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）
株式会社翔泳社　広報担当：長田【cr@shoeisha.co.jp】
〒160-0006 東京都新宿区舟町 5　4F　tel：03-5362-3810